

# 国指定史跡 <sup>おおのいわや</sup>大野窟古墳の被害状況

今田治代（氷川町教育委員会）

## 1. 大野窟古墳の概要

所在地：熊本県八代郡氷川町大野字崩迫・芝原

時期：古墳時代後期（6世紀後半）

墳丘：墳長約123 m、二段築成の前方後円墳である。前方部前面がやや突出する剣菱形に近い形状をなし、墳丘の周囲に盾形の周溝が巡るが、前方部の隅角で途切れ、前面側では土坑が並ぶ形状である。

埋葬施設：長さ12.4 m、複室構造の横穴式石室で、西側くびれ部に開口する。玄室奥に阿蘇石の石棺を置き、玄室の左右に屍床を設置する。また石棺の上部に石棚を設置する。羨道部、前室、玄室、石棺の一部に赤色彩色を施す。

出土遺物：須恵器、陶質土器、石製表飾品

位置づけ：①墳長約123 mであり、肥後地域最大の古墳である。また古墳時代後期（6世紀後半）の前方後円墳の中でも全国的に巨大な墳丘をもつ。

②横穴式石室玄室の天井高は推定6.5 mであり、国内最高クラスの高さである。

③石室の形態は、紀伊地方の影響を受けている可能性がある。

④羨道部壁面の碑文の陰刻は、中世から石室の存在が知られていたことを示す。

⑤石室の基本的な構築手法（羨道を二分して前室を構築する）は、長崎県壱岐郡の首長墓である対馬塚古墳（前方後円墳、65 m）、双六古墳（前方後円墳、91 m）に影響を与えた可能性が考えられている。

⑥北部九州、西日本において、6世紀後半にその地域最大の墳丘、石室を持つ傾向が認められ、大野窟古墳もその首長墓築造の動向に同調している。

九州前方後円墳研究会（以下、九前研）は、古墳時代に特化した研究会としては九州で唯一の存在である。そのため、これまでも会誌を通じて熊本地震で被災した古墳の様子を会員に

## 2. 被災状況

①玄室の壁面全方向から石材が割れて落下し、その大きさは、小さな破片から大きいものは長さ約50 cmに及ぶ。

②玄門立柱石と楣（まぐさ）石の隙間が広がっている。

③前門立柱石の上部のヒビが広がっており、点で石室上部の持ち送りの石材を支えている状態である。

④天井石と天井石の間から、墳丘盛土の土が落ちている。

⑤観音堂石垣のはらみがひどくなっている。

## 3. 今後の修復・調査計画と課題

平成29年度より「歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業（災害復旧事業）」を活用し、石室の災害復旧を実施予定である。今年度は石室の被害状況を調査するため、3次元レーザー測

量を実施する予定である。平成 12 年に同測量により石室の現状調査を実施しており、比較することで、石室の破損状況が詳細に把握されることが考えられる。

修復については次年度以降となるが、修復の方法・期間等は未定である。



図 1 大野窟古墳位置図



図 2 大野窟古墳近景





図3 大野窟古墳空撮写真

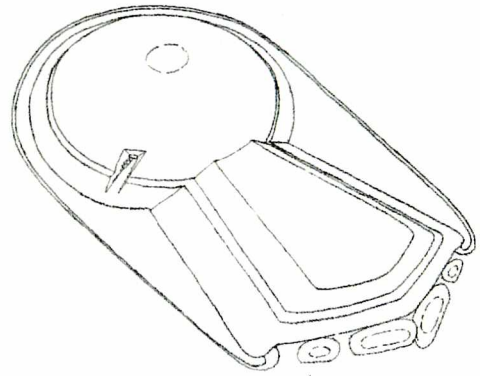


図4 大野窟古墳復元イメージ図

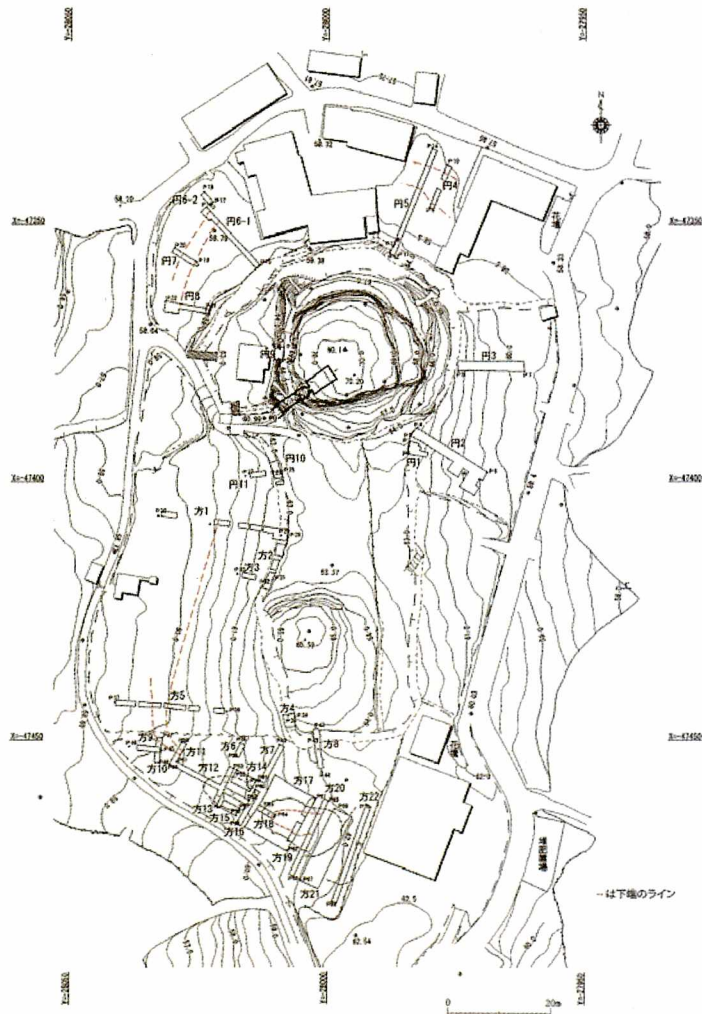


図5 大野窟古墳測量図

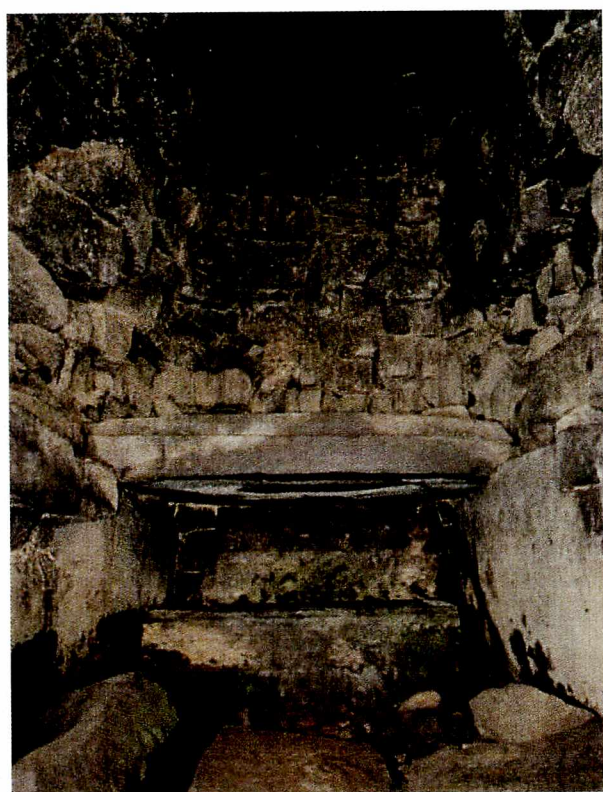


図 6 大野窟古墳玄室写真

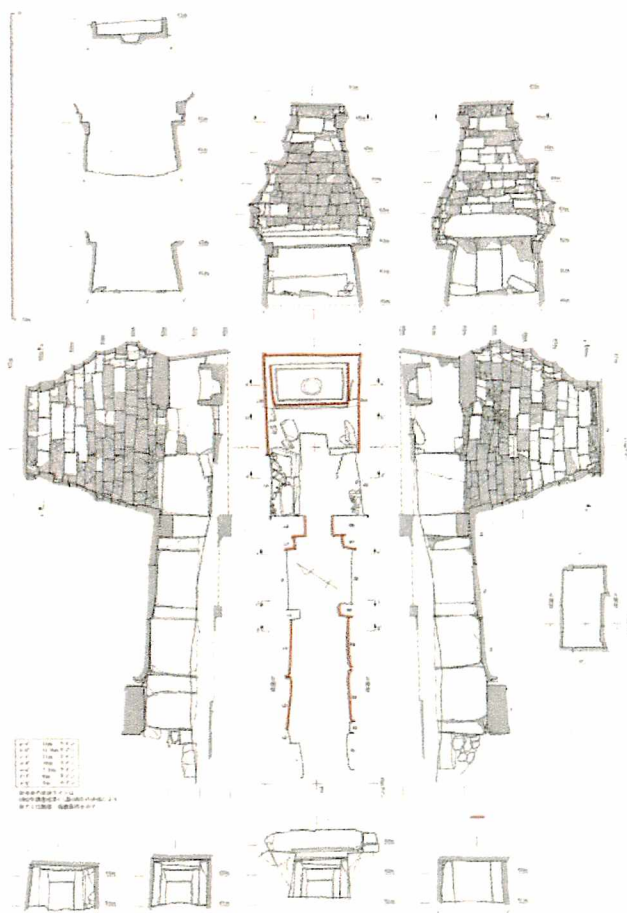


図 7 大野窟古墳石室図



図 8 大野窟古墳出土遺物





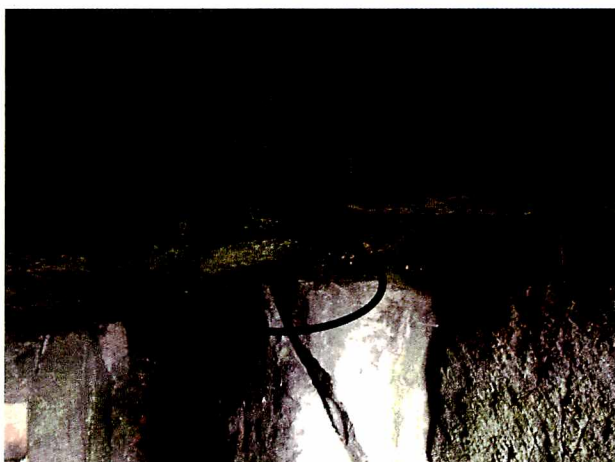
①石棚に落ちた石材



②床面に落ちた石材



③隙間が広がった立柱石と楣石の間



④点で石室上部を支えている



⑤天井石の間から床面に落ちた盛り土



⑥はらみが広がった石垣

図9 大野窟古墳被害状況

引用・参考文献

- 今田治代 2012『大野窟古墳発掘調査報告書』氷川町文化財調査報告書第 2 集 氷川町教育委員会
- 梅原末治 1937「二本古墳巨大石室聚成」『大和島庄石舞臺の巨石古墳』京都帝國大學文學部考古學研究報告第 14 冊 京都帝國大學文學部：pp. 83-84
- 杉井 健 2004「熊本県地域における古墳時代中・後期の首長墓系譜変動に関する覚書」『西日本における前方後円墳消滅過程の比較研究』大阪大学大学院文学研究科：pp. 3-26
- 杉井 健 2010「肥後地域における首長墓系譜変動の画期と古墳時代」『九州における首長墓系譜の再検討』第 13 回九州前方後円墳研究会鹿児島大会 九州前方後円墳研究会：pp. 127-180
- 田中聡一 2006『双六古墳』壱岐市文化財調査報告第 7 集 壱岐市教育委員会
- 廣瀬和雄 2009「古墳時代像再構築のための考察」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 150 集 国立歴史民俗博物館：pp. 33-145
- 福原岱郎 1899「肥後雑見（一）」『考古學會雑誌』第 2 編第 9 號 考古學會：pp. 334-335
- 古城史雄 2011「八代海沿岸地域における後期古墳の再検討-野津古墳群・大野窟古墳を中心として」『熊本古墳研究』第 4 号 熊本古墳研究会：pp. 1-12
- 松本雅明 1976「大野窟古墳」『熊本の装飾古墳』一熊本の風土とところシリーズ 7 熊本日日新聞社：pp. 188-221
- 三島 格 1963「熊本県八代郡大野窟古墳」『九州考古学』第 19 号 九州考古学会：pp. 237-248
- 三島 格 1984「大野窟古墳」『熊本県装飾古墳総合調査報告書』熊本県文化財調査報告第 68 集 熊本県教育委員会：pp. 150-152
- 柳沢一男 2003「複室構造横穴式石室形成過程－羨道間仕切り型の築造系譜－」『新世紀の考古学』大塚初重先生喜寿記念論文集 纂修堂：pp. 471-486
- 和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所 1996『石柵と石梁』和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所